

世界各国で増加傾向のWebセミナー 今後の日本市場でも期待が抱けるか？

今回は、コロナ禍で流行した分野に着目していきたいと思えます。外出自粛、または一部解除時に多くの国で行われた講習イベントについてです。

外出自粛で需要が伸びた Web 講習会

コロナ禍で、急速に普及が進んだ Web ビジネス。国内でも、Zoom や YouTube を使ったオンラインセミナー、展示会が盛んで、その動きは世界各国も同様でした。現在でも、主要メーカーやラッピング企業はこぞって Web による販促活動を続けており、今後もより増えていくと考えられています。

例えば、世界で活躍するラッピング講師のジャスティン・ペイト氏が運営する有料制のラッピング専門サイト「THE WRAP INSTITUTE (TWI)」。

車両装飾に関する技術指導動画を 2,000 本以上公開し、会員であればいつでも見られるようなサービスを展開しています。カラーチェンジやプロテクションフィルムといった車両ラッピング系はもちろん、壁面装飾フィルム、ウィンドウフィルムなど建築系も網羅しているのが特徴です。

ジャスティン氏は、日頃から世界中を飛び回って技術指導に従事しているラッピング講師です。しかし、今年はコロナ禍で他国へ行きづらくなったため、動画制作に注力。ヨーロッパを中心に活動を続け、他の講師と協力しながら、全世界に動画を配信し続けました。

さらに、TWI の認定講師であるディーマス・ブラジル氏も、母国ブラジルでラッピング講習についての動画配信を行ったと聞いています。同時に、少人数制の講習会も実施。同サイトでは他にも、ラッピング関連メーカーと連携してのオンラインイベントや、パネルディスカッション、デザイン講座など、多彩な活動を行いました。ちなみに私も、この TWI の認定講師として活動しています。



世界各地で行われている技術指導講習も、感染対策が必須となっている

見せ方に課題も可能性を感じる Web 事業

さて、ここからは Web セミナーの個人的な印象について話していきます。まず、業界内における動画配信は、主にフィルムや I/P メーカーが行う製品紹介系か、技術指導系の 2 種類に分かれます。私の場合は、ほとんどが後者です。

製品プロモーションについては専門外なので、どれだけの反響があるのかは分かりません。しかし、技術指導に関しては、「分かりにくいのではないかな」という懸念があります。見ている側が実際に施工するわけではないので、うまく状況を伝えられないのです。一見理解したつもりでも、実際にやってみると上手にできず、苦労している人も多いのではないかと不安になります。

ですがこれは、講師、受講者ともに Web での講習会に慣れていない、というのも原因です。今後回数をこなしていく、少しずつ Web に適した教え方になり、聞き方になれば、まだ改善の余地はあると思っています。それよりも、どんな地域にいても、どんな時間でも見られる。その優位性こそが、動画のメリットと言えるのではないのでしょうか。

私は 11 月に、青森県でリアルなラッピング講習会を行いました。参加者はサイン製作に従事する 30 名で、経験も初心者からベテランまでさまざま。非常に熱心な姿勢で受講してもらいました。

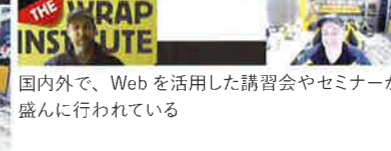
しかし、そこで私は愕然としました。経験豊富なはずの受講者がいたにもかかわらず、その大半は基礎すら知らないばかりだったのです。聞いてみると、「都市部へ行った経験がなく、サイン関連の講習会に参加するのは初めて」という意見も。これまでの情報収集は、地元の仲間だったり、根拠のない Web サイトを頼りにしていたそうです。

必ずしもこの手段がダメだとは思いません。しかし、一方的な情報収集には偏りも生まれます。このエピソードを経験して、私はより一層、信頼性のある Web セミナーの必要性を感じました。

同じ Web でも、動画で見せるだけで、理解度は大きく異なります。また、双方向でコミュニケーションを取れる形式であれば、その場で問題点をフォローして的確な指導ができるでしょう。交通費や宿泊費、仕事を休むといったデメリットがなく、受講できるのもポイントです。

あとは先述した、正しい伝え方の問題です。動画での技術指導は、現状はあくまでリアルな代替えにしかなく、課題も多いのが実情です。それでも、世界各国の講師が試行錯誤をしながら、より良い方法を模索しているのも事実。近いうちに、世界最新の技術を最速で伝達できる理想的な Web セミナーができるのではないかと、個人的に楽しみにしています。

SAMURAI WRAPPER



国内外で、Web を活用した講習会やセミナーが盛んに行われている



ブラジルで開催された講習会のメンバーと、講師のディーマス・ブラジル氏

マイケル・アンドレッティのレーシングチームに訪れた際の筆者

メーカーと顧客間の新たな関係構築に期待

今回のコロナ禍で、海外を含めた多くの展示会が中止となりました。同時に多くの出展メーカーは、新商品の発表や商談の場を失っています。

その対応策として、欧米で面白い試みが行われています。日本で言う LINE のようなツールを用いて、メーカー担当者とユーザーをつなぐグループチャットを作ったのです。ユーザーは、発売前の新商品を受け取って実際に使用。メーカーは使った感想、施工性などの意見を募り、発売に合わせて SNS で発信しています。不具合なども報告し、その後の商品開発に役立てていると言います。

また発売前の製品をテストしている事例として、とあるレーシングチームの取り組みを紹介します。アメリカのレーサー、マイケル・アンドレッティのチームでの話です。世界規模の大会である「インディ 500」で 2 回の優勝経験を持

つ、日本の誇るレーサー・佐藤琢磨氏がかつて所属していたチームとして、知っている人もいるのではないのでしょうか。

ここでは、レーサーを抱えると同時に、自社でラッピング工房と 3 名の専門スタッフを持っています。そして、レースで使う車両を装飾する際、販売前の I/P や未発表のメディア、フィルムを使用し、過酷な環境下での耐久テストをしているそうです。その上で、各メーカーに感想をフィードバックしているのだとか。

国内でもこのような動きが当たり前となり、メーカーと職人たちの信頼し合えるコミュニティを構築できれば、安易なクレームもなくなるのではないのでしょうか。ぜひ、活発化してほしいところです。

今回はカーラッピングから少し幅を広げて、私がこの 10 年間で見てきた世界中のサインについてお話したいと思います。私の経験をともに、今後予測されるサイン業について、探っていきます。

荻谷 伊

(かりや ただし)



1969 年 2 月 3 日生まれ。89 年大学中退後、父の看板業を手伝い始める。07 年より、カーラッピング専門の PPF 事業部を立ち上げ、車体装飾に注力。日本カーラッピング協会の会長も務める。18 年、米・ロングビーチの Wrap Olympics 優勝など、数々のラッピングコンテストで活躍する傍ら、世界各地で車体装飾のデモンストレーションを実施。各国におけるサイン製作の現場も積極的に視察し、業界の発展に寄与する活動を続ける。

資格

- ・職業訓練指導員 第 10085 号
- ・屋外広告士 第 7721 号
- ・1 級技能士 広告美術仕上げ 第 14-061-21-0001 号
- ・3M Preferred (US 3M 本社認定インストーラー)
- ・3M Knifeless 認定インストーラー US0017 号
- ・AVERY DENNISON CWI 認定
- ・HEXIS CERTIFIDE INSTALLER GOLD 認定
- ・LLumar PPF JAPAN 認定講師
- ・TWI 認定トレーナー

主な講師、デモンストレーション実績

- 2017 年 中・杭州でラッピング講習会
中・上海で PPF 講習会
日・SIGN&DISPLAY SHOW でセミナーなど
- 2018 年 日・JAPAN SHOP でセミナーなど
馬・クアラルンプールで PPF 講習会
露・モスクワでコンテスト審査員、PPF 講師
米・ラスベガスの SEMA ショーで実演
- 2019 年 日・沖縄県広告美術協同組合で講習会
尼・スラバヤでのイベントでセミナーなど
露・モスクワでコンテスト審査員
日・SIGN&DISPLAY SHOW でセミナーなど
米・ラスベガスの SEMA ショーで実演
日・名古屋モーターショー FESPA WORLD WRAP MASTERS JAPAN でヘッドジャッジ
- 2020 年 日・日本カーラッピング協会講習会
ほか多数

SNS

フェイスブック (荻谷 伊)
Instagram @designlab.inc.wrap_japan
Twitter @tadashikariya

株式会社デザインラボ PPF 事業部

〒501-6023
岐阜県各務原市川島小綱町 2150-24
TEL/FAX : 0586-89-2332

●企業、団体、個人にかかわらず、カーラッピング、プロテクションフィルムなどについての技術講習会を受付中。小企業の海外展開 (販売) の事例を交えた講演会、セミナーの問い合わせもデザインラボまで。